

母性看護学実習 / 3 学年

1. 実習目的

周産期にある母性の特徴および新生児の特徴を理解し、対象（家族含む）に必要な援助と保健指導を行える基礎的能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的な経過を理解し、基本的な援助ができる。
- 2) 妊婦・産婦・褥婦およびその家族に対する保健指導ができる。
- 3) 母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の諸機関との関係について理解を深める。
- 4) 生命誕生の場面や母性看護の対象を通し、家族の役割や生命の尊厳について考え、自己の母性（父性）意識を高める場とする。

3. 実習内容

一般目標	行動目標	実習内容
<p>1. 妊娠の生理的変化を理解する。 (実習目標 1)</p>	<p>1) 妊娠経過に沿った観察や計測を行うことができる。</p>	<p>(1)妊婦健康診査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠週数 分娩予定日 ・子宮底長 腹囲 体重 ・浮腫 血圧 尿蛋白 ・胎児心音 ・レオポルドの触診法 ・乳房の観察 <p>(2)診察、検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査 NST ・血液検査 ・内診所見（ビショップスコア） ・胎児胎盤機能検査 <p>(3)記録、母子健康手帳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢 家族歴 既往歴 ・妊娠歴 日常生活状況
<p>2. 妊婦健康診査の目的を理解し、母体と胎児の変化に応じた保健指導の必要性を理解する。 (実習目標 1、2、3)</p>	<p>1) 対象の日常生活と関連づけた保健指導の必要性について述べることができる。</p>	<p>(1)妊婦への保健指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査の必要性と諸届の内容 ・生活指導 ・不快症状 ・乳房の手当て ・喫煙、飲酒 ・勤労についての指導 ・マタニティ教室の案内・見学 ・分娩に向けて物品の準備 <p>(2)異常妊婦への保健指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪阻 妊娠高血圧症候群 ・貧血 切迫流早産 ・骨盤位 <p>(3)心理・精神状態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の受容 ・心配事、悩み、不安 ・家族の理解、サポートの有無

一般目標	行動目標	実習内容
<p>3. 分娩の生理的変化を理解する。 (実習目標1、2)</p>	<p>1) 分娩経過に沿った観察や援助を行なうことができる。</p> <p>2) 出生直後の新生児の観察を行い、特徴を述べることができる。</p> <p>3) 分娩直後の産婦の観察を行なうことができる。</p> <p>4) 出産の労をねぎらい、共に喜び合うことができる。</p>	<p>(1)分娩第Ⅰ・Ⅱ期の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陣痛の測定 児心音聴取 ・羊水の観察 出血量の測定 ・子宮口開大 児頭の下降 ・破水 排臨、発露 ・バイタルサインの測定 ・一般状態 産婦の訴え <p>(2)分娩第Ⅰ・Ⅱ期の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産婦の努責、体位 ・産婦に対して呼吸指導、補助動作 ・産痛の緩和 ・水分補給 ・外陰部の清潔 ・導尿、浣腸 ・会陰切開 ・産婦の心理的変化、精神的慰安 ・分娩機転と胎児の娩出様式 ・家族への援助 <p>(1)出生直後の児の観察と援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胎児娩出時刻 ・第1呼吸の助成 ・アプガールスコアの判定 ・バイタルサインの測定 ・母児標識 ・全身の観察(成熟徴候と奇形の有無) ・諸計測 ・点眼 臍処置 ・カンガルーケア ・母親、家族との面会 <p>(1)分娩第Ⅲ期の観察と援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胎盤剥離徴候 ・胎盤娩出時刻、娩出後の子宮収縮 ・胎盤の観察と計測 ・子宮収縮促進、輪状マッサージ ・バイタルサインの測定 ・産婦に対する労いと安らぎの声かけ ・帰室時のオリエンテーション <p>(2)分娩第Ⅳ期の観察と援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子宮収縮 出血 ・裂傷の有無と部位 ・外陰部、肛門の状態 後陣痛 ・一般状態と疲労 ・産婦の心理状態 ・疲労回復のための援助 ・環境の調整 ・分娩後の初回歩行

一般目標	行動目標	実習内容
<p>4. 産褥の正常な経過を理解し、必要な保健指導を学ぶ。 (実習目標 1、2)</p>	<p>1) 復古現象の観察および促進するための援助ができる。</p> <p>2) 母乳栄養の観察および促進するための援助ができる。</p> <p>3) 産褥期に起こりやすい感染症の予防のための援助が実施できる。</p> <p>4) 褥婦に必要な育児指導が実施できる。</p>	<p>(1)復古現象の助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早期離床 産褥体操 ・ 子宮収縮の状態 後陣痛の有無 ・ 授乳 悪露の量と性状 ・ 排泄状態 (膀胱、直腸の充満の有無) <p>(1)乳汁分泌促進の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母乳栄養の利点 ・ 乳管開通状況 乳頭の観察 ・ 乳汁分泌のメカニズム ・ ラッチオン ポジショニング ・ 授乳指導 保護乳首の使用 搾乳 ・ 栄養、水分の十分な摂取 ・ 睡眠、休息 ・ 精神の安定 <p>(1)産褥期に起こりやすい感染症の予防への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子宮内感染 ・ 会陰縫合創の感染 ・ 膀胱炎 ・ 乳腺炎 <p>(1)育児の知識と手技の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授乳指導 哺乳量測定 ・ 衣服の着脱 オムツの当て方 ・ 沐浴指導 臍の手当て ・ 環境整備～冷暖房の使い方 ・ 事故防止～窒息、添い寝 <p>(2)退院後の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活指導 ・ 社会資源の活用
<p>5. 新生児の生理的経過を理解し、新生児期に必要な基本的技術を身につける。 (実習目標 1、2)</p>	<p>1) 新生児の生理的特徴を述べるができる。</p> <p>2) 新生児の日常生活の援助技術の目的・目標をふまえ、安全に実施できる。</p>	<p>(1)新生児の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体計測、成熟度評価 ・ 生理的体重減少 生理的黄疸 ・ バイタルサインの測定 ・ 全身の観察 ・ 産瘤、頭血腫 ・ 原始反射 ・ 排泄 皮膚の状態 <p>(1)日常生活の援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服・オムツ交換 ・ 身体の清潔 (沐浴、臍の消毒) ・ 授乳 哺乳量の測定法 ・ 1回哺乳量の目安 排気の方法 ・ 環境の調節 ・ K2 シロップの与薬 <p>(2)感染防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い ・ 環境整備 ・ 使用物品の清潔、消毒

一般目標	行動目標	実習内容
6. 家族の役割や生命の尊厳について考え、自己の母性(父性)意識を高めることができる。 (実習目標4)	1) 自己の母性観(父性観)を述べるができる。	(3)事故防止 ・吐物による誤嚥予防 ・臥床時の体位 ・転落事故の防止 (1)妊婦・産婦・褥婦との関わり ・出産に対する対象や家族の思い ・母親役割、父親役割 ・生命の尊厳 生命倫理

4. 実習時間(単位)

総時間 90時間(2単位)

(1) 臨地実習 70時間

(2) 学内実習 20時間(0.44単位)

目的: 臨地での学びを振り返り、学びを共有する。

内容: ①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向性について話し合い翌日の援助に繋げる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を進める。また、技術練習の機会とする。

③教員の指導のもと、看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。

<実習期間および時間>

	9:00~9:45	9:45~10:30	10:30~11:15	11:15~12:00	12:00~12:45	13:45~14:30	14:30~15:15	15:15~16:00	16:00~16:45
1日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
2日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
3日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
4日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
5日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
6日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
7日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
8日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
9日目			臨地実習				臨地実習		学内実習
10日目			臨地実習				臨地実習		学内実習

5. 実習方法

- ・周産期の中でも特に産褥期の母子の看護を中心に実習する。
- ・正常に経過すると思われる母子を受け持ち、健康(正常)に経過させるための援助について学習する。
- ・対象と実習の状況をふまえ、2例目も積極的に受け持ち看護過程を展開していく。

1) 実習スケジュール

第1週目…1日目に母性看護全体の把握と、基本的な母性看護特有の看護技術の習得を目的とする。多くの看護・指導を見学し、受け持ち事例への看護の基盤づくりをし、一度見学したものについては次回から積極的に実施する。

対象の褥婦がいる場合、受け持って看護過程を展開する。

第2週目…褥婦1名を受け持ち、看護過程を展開する。

※受け持ち褥婦について

入院時または分娩時から受け持てることが望ましいが、産褥期にできるだけ関わられる日数が多くなることを重点に考える。褥婦の許可が得られる場合は学生2名で受け持つ場合もある。

※受け持ちの事例がない学生は、自己の不足な点、未経験な技術の習得など、各自課題をもって実習に臨むこと。

見学できる項目 ～ 沐浴・直接授乳・母子同室指導・退院指導・退院診察・マタニティ教室・創部の観察・初回歩行

実施できる項目 ～ 沐浴指導・その他保健指導・出産直後の児処置・分娩期の援助・直接授乳時の指導・褥婦および新生児の清拭・児の体重測定・ミノルタ測定

保健指導に使用するパンフレットについては、実習開始前にクラスで基礎となるものを作成し、担当教員が点検する。沐浴のパンフレットは病棟スタッフの点検を受ける。作成したパンフレットを活用し、実習においては各自個別性をふまえて受け持ち褥婦用のパンフレットとする。新たに追加したいものについては事前に指導者、担当教員へ相談し、点検されたものを使用する。

※ 作成するパンフレット… 貧血、妊娠高血圧症候群、沐浴、直接授乳、退院に向けて

2) 外来実習について（妊婦健康診査・2週間健診）

実習期間内で、妊婦健康診査・2週間健診について外来実習を行う。

妊婦健康診査では、必要な看護技術の習得と妊娠の生理的な経過を理解することを目的とする。2週間健診では、産褥期の継続した保健活動について理解を深めると共に、退院後の継続看護の必要性について学ぶことを目的とする。

※妊婦健康診査では、事前に妊娠期の生理的変化（特に腹囲・子宮底長の変化）・尿検査・超音波検査・ノンストレステスト・妊娠期の内診の必要性について・保健指導の必要性について学習して臨むこと

3) その他

- ・分娩を見学する際は、1人の産婦に2人以上の学生はつかないほうが望ましい。やむを得ない場合は役割分担を考え、産婦の負担にならないように配慮する。
- ・分娩の際には実習時間外であっても実習することができる。（昼休み・放課後）ただし、その際には指導者の許可を得て、教員にその旨を必ず報告すること。
- ・男子学生の母性看護学実習については、女子学生とおおむね変わりはない。しかし、生殖器を露出する援助については、指導者に相談の上、褥婦の了解をとること。
- ・実習前の課題
モデル人形を使って沐浴練習を十分に行ない、グループ毎に担当教員の指導を受ける。

6. 実習記録

- 1) 実習の記録の書式を参考に作成する。
- 2) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、実習終了の翌日に提出とする。

7. 実習評価

母性看護学実習評価表を用いて評価。

